Central Weekly Market Report　NO. 1167

2023年9月29日
セントラル短資株式会社　総合企画部

今週（9月25日から9月29日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は、オファーサイドの資金運用ニーズが強く、レートは低下基調となった。
無担保コールO/N物では、調達ニーズは強いものの、レポレートの低下を受け、裁定取引による運用ニーズが旺盛な状態が続いた。また29日(金)は、四半期末を跨ぐ取引となった事で、オファー、ビッド共に取引を控える先が多くみられた。
ターム物に関しては、▲0.06～▲0.04%近辺での出合いが散見された。

日銀当座預金残高は、549兆円前後での推移となったが、29日(金)に四半期末要因として、国債補完供給オペ(午前オファー分)が4兆8,608億円の落札となった事から、547兆円程度での着地が見込まれる。

●レポ市場

今週のGC T/N物は、▲1.00～▲0.11%のレンジでの取引となった。9月末越え要因から、レートは28日(木)にかけて低下する展開となった。29日(金)は9月末越えのプレミアムが剥落した事に加え、短国の発行要因もありレートは上昇した。
SCはカレント銘柄近辺や、チーペスト周りの銘柄にビッドが多く見られた。

●短国市場

今週の短国市場は、レポレートの低下や在庫量の減少を背景に堅調に推移した。
26日に実施された短国買入オペは、前回と同額の1,000億円でオファーされ、按分利回較差±0.000%、平均利回較差±0.000%と強めの結果となった。
29日に実施された3M物入札は、12月末越え物となった事もあり強めの結果となった。結果発表後のセカンダリーマーケットでも堅調に推移した。

●CP市場

今週のCP市場は、月末週にあたり複数の業態で大型発行が見られたものの、四半期末の大量償還要因により、大幅に償還超のマーケットとなった。
市場発行残高は、26兆円台後半から27兆円台前半での推移となったが、29日には大幅に減少する見込みとなった。
発行レートは前週に引き続き、日銀適格担保銘柄では0%前後の出合いが中心となったが、3Mを超えるロングターム物に関しては、投資家の慎重な姿勢が見られ、レート目線にばらつきがあった。
CP等買入オペは、26日に予定通り4,000億円でオファーされた。結果は按分レート0.000%、平均落札レート+0.016%と前回比（按分▲0.003%・平均+0.008%）で按分レート・平均レートともに上昇した。

●短期金融市場関連指標

	日経平均（円）	新発10年物 国債利回り（%）	為替 (ドル/円中心相場)	無担保コールO/N (加重平均・%)	東京レポレート(翌日物・T+1スタート・%)	日銀当座預金残高 (億円)
9/25 (月)	32,678.62	0.725	148.40	△ 0.042	△ 0.181	5,494,100
9/26 (火)	32,315.05	0.740	148.88	△ 0.051	△ 0.251	5,506,500
9/27 (水)	32,371.90	0.735	149.03	△ 0.064	△ 0.397	5,486,000
9/28 (木)	31,872.52	0.755	149.49	△ 0.063	△ 0.547	5,493,700
9/29 (金)	31,857.62	0.765	149.44	△ 0.062	△ 0.135	5,472,000

来週（10月2日から10月6日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定			海外主要経済指標
10/2 (月)	9月調査の日銀短観(概要及び要旨,日銀 8:50) 決定会合における主な意見(9月21･22日分 8:50)				9月のISM製造業景況指数 8月の米建設支出
10/3 (火)	9月のマネタリーベース(日銀 8:50) 財政資金対民間収支前月実績/当月見込み(財務省 15:00)	10Y 27,000億円 10/4発行			
10/4 (水)	10月の日銀当座預金増減要因見込み(日銀 8:50)	交付税借入 13,000億円 10/16借入			9月のISM非製造業景況指数 8月の米製造業新規受注・出荷・在庫
10/5 (木)		TB6M 40,000億円 10/10発行	30Y 9,000億円 10/6発行		8月の米貿易収支
10/6 (金)	9月のマネタリーベースと日本銀行の取引(日銀 8:50) 8月の毎月勤労統計調査速報(厚生労働省 8:30) 8月の全世帯家計調査(総務省 8:30) 8月の景気動向指数速報(内閣府 14:00)	TB3M 56,000億円 10/10発行			9月の米雇用統計 8月の米消費者信用残高

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
10/2 (月)	400	▲ 22,900	▲ 22,500	国債買入		3,000	51,200	28,700	TB3M発行▲56,000 償還63,000
				国債補完	48,400				2Y発行▲29,000 償還7,800
				CP買入	▲ 200				
10/3 (火)	500	▲ 8,000	▲ 7,500				0	▲ 7,500	
10/4 (水)	500	▲ 63,000	▲ 62,500				0	▲ 62,500	消費税・法人税揚げ、年金保険料揚げ 10Y発行▲27,000
10/5 (木)	▲ 1,000	2,000	1,000				0	1,000	
10/6 (金)	▲ 500	▲ 9,500	▲ 10,000				0	▲ 10,000	恩給 30Y発行▲9,000
週 間 合 計	▲ 100	▲ 101,400	▲ 101,500	—	48,200	3,000	51,200	▲ 50,300	

10/2は日銀予想、10/3以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、積み期後半となり、ビッドを控えていた先からの資金調達も予想される事から、レート水準は上昇していく事が見込まれる。債券レポ GC T/N物は、▲0.25～▲0.08%のレンジでの推移が予想される。短国市場は、10月5日に6M物、6日に3M物の入札実施が予定されている。また、3日に実施が予想される短国買入オペは、1,000億円程度が見込まれる。CP市場は、期明けの発行再開により、市場残高がどこまで回復するのか動向が注目される。

主要なイベントは、国内では2日に日銀短観、決定会合における主な意見(9月21･22日分)、海外では、2日に9月のISM製造業景況指数、4日に9月のISM非製造業景況指数、6日に9月の米雇用統計などの発表が予定されている。

◆本資料は信頼できると思われる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。
◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目論見書をよくお読みください。
セントラル短資株式会社　登録金融機関関東財務局長（登金）第526号　日本証券業協会加入